

DEEP VALLEY

Agritech Award 2026

アグリテックビジネスコンテスト
応募要項

2026年5月

埼玉県深谷市

1. DEEP VALLEY AGRITECH AWARD 2026 開催趣旨.....	2
2. 主催者及び事務局.....	3
3. テーマ、応募資格.....	4
3.1. テーマ「農業×○○=未来」.....	4
3.2. 応募資格.....	4
4. 応募期間、面談、応募方法、審査プロセス.....	5
4.1. 応募期間.....	5
4.2. 応募方法.....	5
4.3. 審査プロセス.....	5
4.4. 提出書類.....	6
4.5. エントリーシート 記載方法見本	7
5. 表彰について.....	8
5.1. 各賞	8
5.2. ファイナリスト賞の活動委託制度について.....	9
6. 審査ポイント.....	10
7. 提案に関する権利関係、その他	11
7.1. 応募に際しての注意事項	11
7.2. 提案に関する権利関係	14
8. 参考資料.....	15
8.1. 深谷市の農業に関する現状認識	15
8.2. 深谷市の農業基本データ.....	16
8.3. 深谷市における農業課題（例）	18

1. DEEP VALLEY Agritech Award 2026 開催趣旨

「儲かる農業都市」の実現を目指しスタートした DEEP VALLEY Agritech Award は、これまで過去 7 回にわたり開催してきました。フードバリューチェーン全体を見据えた領域拡大や、米国ノースダコタ州の Grand Farm とのグローバルパートナーシップなど、常に進化を続けながら、累計 173 社ものエントリーをいただきました。その結果、5 社への出資を実行し、国の支援を受けたスマート農業プロジェクトが深谷市内で 6 件展開されるなど、地域に確かな変化が生まれ始めています。

しかし、これまでの歩みの中で、わたしたちが強く痛感したことがあります。

それは、「どんなに革新的な技術や素晴らしいアイデアであっても、アグリテックを単なる技術開発にとどめず、実際の農地に入り込み、事業として成功に導くことへの壁は想像以上に高く、険しい」という現実です。

だからこそ、2026 年のアワードは大きく変わります。

今年のテーマは、引き続き「農業×〇〇＝未来」。しかし、わたしたちが求めているのは、もはやアイデアの提示ではありません。注力するのは、技術と現場（農家）を強固に結びつけ、実証から社会実装・事業化へと一気に引き上げる「接続フェーズ」の徹底的な強化です。

その本気度の証として、本年度はこれまでの出資賞金 1,000 万円に加え、新たに【総額 1,000 万円の活動委託制度】を新設しました。これは単なる報奨金ではありません。深谷の土壌で、農家と共に泥臭く事業実装に挑んでいただくための「共創のチケット」です。

わたしたちが見据える 5 年後、10 年後の未来。それは、深谷市が単なる「実証実験の場」を越え、アグリテック企業、農家、多様なプレイヤーが有機的に結びつき、次々と新しい「農と食」のビジネスモデルが自律的に生まれ育つ【強固なエコシステム】として確立している姿です。深谷の現場で実装され、鍛え上げられた技術が、やがて日本全国、そして世界へと広がる農業の新たなスタンダードとなることを固く信じています。

本アワードが求めているのは、本気で農業の未来を変えたいと願う挑戦者です。

机上の空論で終わらせず、農家のリアルな課題に寄り添い、現場と共に汗を流し、事業化という結果にコミットできる方々に来ていただきたい――。

深谷市は、現場マッチング、実証フィールドの提供、資金支援など、持てるリソースのすべてを懸けてあなたの挑戦に伴走します。出資の有無や受賞の枠にとらわれず、「農と食の未来」を共につくってまいります。

本気の挑戦を、心よりお待ちしております。

2. 主催者及び事務局

主催：埼玉県深谷市

事務局

- 名称：DEEP VALLEY Agritech Award 運営事務局（運営:株式会社ユニークピース、株式会社 SHAPE）
- 連絡先（E-mail）：agritechaward@deep-valley.jp

DEEP VALLEY 推進体制について

DEEP VALLEY Agritech Award 2026 は、農業に関わる多様な企業がつながりあい、自発的な企業の集積が発生しているまちの状態である「アグリテック集積都市 DEEP VALLEY」を実現するための、深谷市の農業課題解決に資する企業・技術を集める取組として位置づけられています。

DEEP VALLEY 実現に向けて産業集積を戦略的に実行するため、下記の農業・商工業各団体や、大学、企業等を **DEEP VALLEY 推進パートナー（※）** として取組みます。

※DEEP VALLEY 推進パートナー：

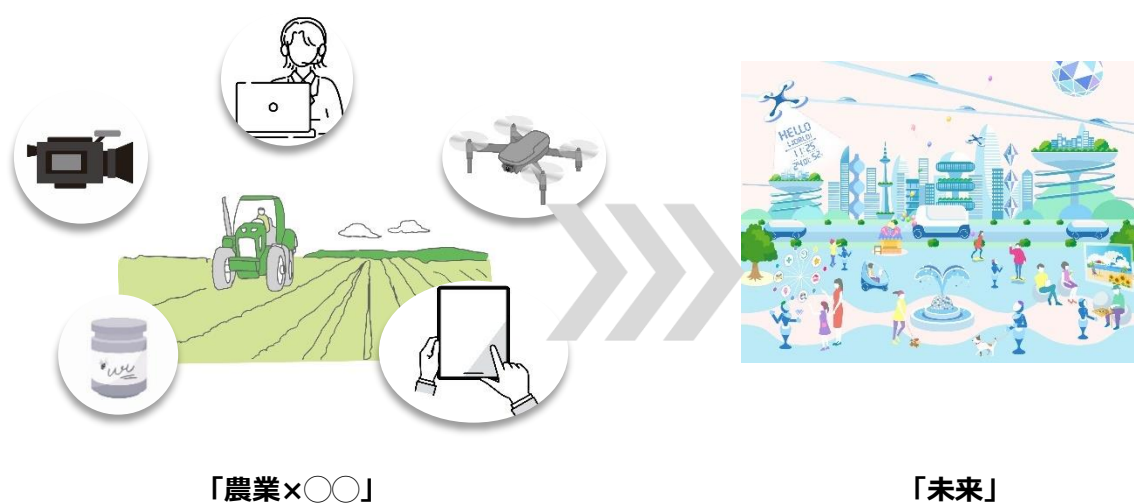
ふかや農業協同組合、埼玉岡部農業協同組合、花園農業協同組合、深谷商工会議所、
ふかや市商工会、学校法人智香寺学園 埼玉工業大学、株式会社チェンジホールディングス
株式会社 ATOMica、株式会社ユニークピース、株式会社 SHAPE

3. テーマ、応募資格

3.1. テーマ「農業×○○＝未来」

今年のアワードのテーマは、「農業×○○＝未来」です。

自由な発想で、農業を取り巻く1次から6次過程におけるアイデアを対象としつつ、農業経営やフードバリューチェーン等におけるアイデアなど農業の未来を共創する提案を幅広く募集します。そして、未来の農業を創るみなさんのアイデアの実現に向けて、深谷市は伴走支援を行ってまいります。



○○：除草/ロボット/販売/人/プロダクト/デジタル/コンサル など

3.2. 応募資格

(1) 応募条件

受賞の有無に限らず、深谷市をはじめとした農業を取り巻く「農業生産」「農業経営」「食品加工・製造」「流通・輸送」「販売・消費」等の農業課題の解決や改善に向けた取組を実施できる個人・法人の方で、応募者の所在地については深谷市内外を問いません。また、DEEP VALLEY 会員企業、過去に実施された DEEP VALLEY Agritech Award 応募者につきましても応募資格があります。その他、グループでの応募も可能です。

(2) 留意事項

- ・ 販売等による営業を主目的としている企業様は、応募対象外となります。DEEP VALLEY 会員にご登録ください。DEEP VALLEY 会員登録についてのお問い合わせ：info@deep-valley.jp
- ・ バイオスティミュラント資材や第三者機関による実証実績の証明がない製品等のご提案をされる

企業や個人の方は、P6「4.4 提出書類」の記載事項をご確認の上、エントリーください。

4. 応募期間、面談、応募方法、審査プロセス

4.1. 応募期間

プレエントリー期間：2026年5月15日（金）10:00～2026年5月27日（水）12:00

本エントリー期間：2026年5月28日（木）12:00～2026年6月19日（金）17:00 締切

※本アワードに関する「エントリー説明会」を2026年5月27日（水）11:00に実施予定です。参加ご希望の方は本アワードのプレエントリーフォームよりお申込みください。

4.2. 応募方法

所定のエントリーシートに日本語で入力いただいた上で、エントリーシートと補足・参考資料をウェブサイト上の応募フォームから本エントリー期間内に提出してください。補足・参考資料は提出を必須とし、別途資料をZIP形式等で圧縮ファイル（エントリーシート含み最大5MBまで）として添付してください。5MBを超える場合には、応募フォーム内でエントリーシートのみをZIP形式にて添付し、補足・参考資料はDEEP VALLEY Agritech Award 運営事務局（agritechaward@deep-valley.jp）までご送付ください。

➤ <https://agritechaward.deep-valley.jp>

エントリーシートの記載方法は応募要項 p.7 の記載方法見本を参照ください。

4.3. 審査プロセス

書類審査による一次審査、オンラインでのプレゼン審査・面談による二次審査を行います。これらを通じたご提案による現地開催での最終審査では、各賞を選定いたします。

- プレエントリー 5月15日（金）10:00～5月27日（水）12:00
 - エントリー説明会 5月27日（水）11:00～
 - 本エントリー 5月28日（木）12:00～6月19日（金）17:00 締切
 - 一次審査（書類審査） 6月22日（月）～7月3日（金）
 - 一次審査通過者へのメール通知 7月上旬頃
 - 二次審査用動画提出締切 7月22日（水）17:00 締切
 - 二次審査（プレゼン審査、面談） 8月22日（土）、23日（日） 会場：オンライン開催
- ※ プレゼンテーション動画は事前送付、面談はオンラインにて実施予定です。
- ※ 審査の過程において、必要に応じて提案製品の現地審査・見学等を実施する場合があります。
- 二次審査通過者へのメール通知 9月2日（水）頃

-
- 最終審査（プレゼン審査、面談） 10月14日（水） 会場：深谷市役所
 - 表彰式 ※最終審査と同日開催
 - ※ 最終審査ならびに表彰式は現地開催となります。エントリーの際は、ご注意ください。
 - ※ 最終審査は収録撮影を実施し後日配信を予定しています。
 - ※ 応募状況等によっては、スケジュールを変更する可能性があります。最新スケジュールは、DEEP VALLEY Agritech Award 特設サイト（<https://agritechaward.deep-valley.jp/>）上にてお知らせします。

4.4. 提出書類

応募の際は、以下の書類を提出してください。

- エントリーシート（p7 4.5 参照）
- 補足・説明資料（企業や提案の内容を補足説明する資料を提出ください。形式は問いません）

※ZIP形式等にまとめて提出、合計5MBまで

※5MBを超える場合には、応募フォーム内でエントリーシートのみをZIP形式にて添付し、補足・参考資料はDEEP VALLEY Agritech Award 運営事務局（agritechaward@deep-valley.jp）に送付

【バイオスティミュラント資材や第三者機関による実証実績の証明がない製品等のご提案について】

- 効果や信憑性を評価するための根拠となるデータ資料

※可能な限り第三者機関による証明がされたデータをご提出ください。

※第三者機関による証明が難しい場合は、可能な限り客観的なデータ提出に努めてください。

※開示が可能な範囲でのデータのご提出をお願いします。

※ご提出がない場合でも、一次審査の可否には影響いたしません。

4.5. エントリーシート 記載方法見本

DEEP VALLEY Agritech Award 2026 エントリーシート

企画提案名	農業×○○＝未来 ※○○に提案事業を簡潔にご記載ください。			
サブテーマ	○○○○○○○○ ※提案概要がわかるように一文程度で簡潔にご記載ください。			
企業名(フリガナ)	株式会社○○○○(○○○○)			
応募者名(フリガナ)	○○○○(○○○○)			
所在地・住所	○○○○			
連絡先	E-mail: ○○@○○○○○ TEL:○○-○○○○-○○○○			
生年月日	西暦○○○○年○○月○○日(○○歳)	職業	○○○○	
企業概要	業種	○○○業	事業内容	○○○○○○○
	設立年月	西暦○○○○年○○月設立	資本金	○○○○円
	従業員数	○○人		
出資希望	希望する・希望しない・検討中	GRAND FARM 賞希望	希望する・希望しない・検討中	
活動委託制度	希望する・希望しない・検討中			

【企画提案書概要】

※「農業×○○＝未来」をテーマに、提案事業が農業と掛け合わせることで、どのように「農と食の産業」の強化につながるのか、特徴や意義が伝わるように、簡潔にわかりやすく記載してください。

【必要性】

※提案事業が「農業」を取り巻く環境においてどのような需要があるのか具体的に記載してください。また、深谷市での共創提案を踏まえつつ、導入可能性を高める工夫や将来的な発展性があれば併せて記載してください。

【経済性】

※提案事業を導入することで、「農業」を取り巻く環境において経済的にどのような貢献をするか、具体的に記載してください。

【独創性・競合優位性】

※提案事業が従来の技術やサービスと比較して、どのような新規性や独創性を兼ね備えているか、具体的に記載してください。既存の類似サービスがある場合は、市場調査、競合分析等の要素について明確に記載してください。

【継続性】

※提案事業を実行、継続していく上での資本体制や資金計画があれば具体的に記載してください。

【実現性】

※提案事業を実現するための、内外での人員（協力）体制について記載してください。また、提案事業を実現する上での過去実績や提案者の取り組み思いがあれば、記載してください。

※企画提案内容に関する補足・参考資料等を併せて提出してください。 ※エントリーシートの記載方法は応募要項の P.7 を参照の上、赤字は削除してください。

5. 表彰について

5.1. 各賞

賞金（出資金） 1,000 万円

深谷市からの出資金額については、出資可否を含めた受賞者との協議の上決定します。

DEEP VALLEY 最優秀賞 1 件

ファイナリストの提案のうち、出資希望の有無に関わらず最も優れた提案を、審査により決定します。

対象者には、出資優先交渉権を付与します。

DEEP VALLEY 優秀賞 1 件

ファイナリストの提案のうち、出資希望の有無に関わらず優れた提案を、審査により決定します。

対象者には、出資交渉権を付与します。

※出資交渉権は最優秀賞企業へ優先的に付与しますが、最優秀賞企業が出資受入を希望しない場合又は出資金額が 1,000 万円に満たない場合、優秀賞企業に付与します。

※出資交渉期限は、原則、年度内までとなります。

※DEEP VALLEY 最優秀賞及び優秀賞には、副賞として深谷ねぎ（10kg 想定）を贈呈します。

Grand Farm 賞

ファイナリストの提案のうち、Grand Farm により決定します。

Grand Farm 賞は、グランドファームでの実証フィールドの使用権を提供します。

審査の結果、該当なしとなる場合もございますのでご了承ください。

協賛企業賞

ファイナリストの提案のうち、協賛企業により決定します。

協賛企業賞の副賞については、協賛企業が確定した後に、DEEP VALLEY Agritech Award 特設サイト上にてお知らせします。

協賛企業の募集の都合上、協賛企業賞を本年度は実施しない場合もございますのでご了承下さい。

ファイナリスト賞

活動委託費総額 1000 万円

地域通貨 negi 1 万円分

5.2. ファイナリスト賞の活動委託制度について

DEEP VALLEY Agritech Award 2026 では、深谷市の農業課題の解決に資する取り組みを推進するため、ファイナリスト企業に対する活動委託制度を新設いたしました。

本制度は、DEEP VALLEY（アグリテック集積戦略）の下、企業の持つ技術やサービスを活用しながら、地域農業の課題解決や実証プロジェクトを推進することを目的としています。

■ 活動委託制度

ファイナリスト企業を対象に、農業課題解決に向けた実証・調査・開発等の深谷市内での活動を委託いたします。

- 活動委託費総額：1,000 万円

■ 注意事項

※ファイナリスト企業は、必ずしも活動委託費を受けられるものではありません。

※ファイナリスト企業の提案内容を踏まえ、深谷市の農業課題解決に資するプロジェクトを対象として個別に委託契約を締結する場合があります。

※活動委託費を希望するファイナリスト企業の活動内容・社数・必要額をもとに、個別交渉の後、総額1,000 万円が分配して委託されます。

※深谷市からの出資を受けた企業は活動委託費を受けることはできません。

※詳細については、コンテスト終了後、深谷市産業ブランド推進室より個別にご連絡いたします。

6. 審査ポイント

各部門の審査項目とポイントは下記の通りです。

農業：本プロジェクトでは、生産だけでなく、1次～6次までにかかる広義の意味を指しています。

審査項目	審査ポイント
必要性	<ul style="list-style-type: none">✓ 深谷市または日本、世界の『農業』を起点とした取り巻く環境において、技術・サービスを導入・使用しやすくなる工夫が施されているか✓ 提案の技術・サービスが深谷市または日本、世界の『農業』を起点とした取り巻く環境において役立つものであり、課題が解決できると感じられるか✓ 提案の技術・サービスに、将来的な発展性が見込めるか
経済性	<ul style="list-style-type: none">✓ 提案の技術・サービスを導入することで、深谷市または日本、世界の『農業』を起点とした取り巻く環境においてコスト削減や売上の増加等の経済性が高まるか
独創性・競合優位性	<ul style="list-style-type: none">✓ 提案の技術・サービスに、新しい技術やこれまでにない視点が含まれているか✓ 既存の類似サービスがある場合、明確に差別化をし、優位性を明記しているか
継続性	<ul style="list-style-type: none">✓ 事業を継続するための資本体制又は計画があるか
実現性	<ul style="list-style-type: none">✓ 事業を進める上で内部又は外部に協力体制があるか✓ 事業を実現する上で裏付ける実績や提案者の強い思いがあるか

- ※ 受賞者は、実証実験の実施に努めてください。実証実験の実施に際しては、深谷市は様々な観点から伴走型の支援を行います。
- ※ 審査では、上記の審査ポイントに共通した観点として、**深谷市での課題解決及び共創提案**を重視します。

7. 提案に関する権利関係、その他

7.1. 応募に際しての注意事項

応募に際しては、以下の項目についてあらかじめ同意の上、お申込みください。

1. 募集対象者について

- ① 学生、大学院生（修士、博士課程に在学）、個人による応募の他、グループでの応募も可能です。未成年の方は、成年の方とのグループでの参加をお願いします。
- ② 自らビジネスプランを作成し、当該事業を実行する意志を持たない者による応募は不可とさせていただきます。
- ③ 反社会的勢力である者、反社会的勢力との間に過去・現在又は直接・間接を問わず、取引、金銭の支払い、便宜の供与その他一切の関係又は交流がある者、また、反社会的勢力に属する者又は反社会的勢力との交流を持っている者が役員に選任され、従業員として雇用され又は経営に関与している事実がある者は、応募することができません。
- ④ 審査結果については、各審査段階終了後に E-Mail で応募者に連絡します。落選理由など、審査結果に関する個別のお問合せには応じられませんので、予めご了承ください。審査後に法令違反等が発覚した場合は、審査結果を取り消す場合があります。
- ⑤ 一次審査、二次審査の時に主催者からの内容確認、質疑、追加情報提供等に応じていただくことがあります。
- ⑥ 審査の過程において、製品の確認（デモンストレーション実施等）を実施させていただく場合があります。
- ⑦ 上記に関わらず、主催者が不適切と認めた応募者については、主催者の判断により応募資格取り消しとさせていただきます。
- ⑧ 2次審査を通過したファイナリストは、**10月に行われる最終審査及び表彰式の現地参加**をお願いします。

2. 表彰事業者について

応募内容について、展示や公表等に関する権利は主催者が優先保持します。

3. DEEP VALLEY Agritech Award 2026 における個人情報の取り扱いについて

深谷市は、「深谷市アグリテック集積戦略実行支援業務（以下、「本業務」といいます）」および本業務の一環として実施する「DEEP VALLEY Agritech Award 2026（以下、「本プロジェクト」といいます）」等において、任意に頂戴する個人情報の管理に細心の注意を払い、これを適正に取り扱います。

また、ご本人の同意に基づいて提出される個人情報は、個人情報の保護に関する法律及び深谷市の定める深谷市個人情報保護法施行条例、深谷市個人情報保護法施行細則に則って管理されます。

なお、深谷市は本業務を株式会社チェンジホールディングスに委託しており、株式会社チェンジホールディングスから再委託を受けた株式会社ユニークピースおよび再々委託先の株式会社 SHAPE が、本業務のうちイベント企画運営業務ならびに研修企画運営業務とこれに付随関連する業務の企画・運営を行います。

■ 個人情報

個人情報とは、ご本人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、住所その他の記述等により個人を識別することができるものをいいます。

また、その情報のみでは個人を識別できない場合でも、他の情報と容易に照合することができ、それにより結果的に個人を識別することができるものも個人情報に含まれます。

■ 個人情報の利用目的

深谷市は、本プロジェクトにおいて取得した個人情報を、以下の目的の範囲内で利用いたします。

- (1) 本業務の事業管理、円滑な運営。
- (2) 本業務において実施する各種サービスのご案内。
- (3) 本業務において実施する各種サービスのアンケートの実施等。
- (4) 本業務において実施する各種サービスに関するご意見、お問い合わせへの回答。
- (5) 本業務において実施する本プロジェクトの選考、受賞特典の授与。
- (6) 本業務、本プロジェクトとそれに付随するメール配信等。

■ 個人情報の共同利用について

本プロジェクトでは下記の通り、取得した個人情報を共同利用いたします。

- ①利用項目： 姓、名、メールアドレス、電話番号、企業名、住所、生年月日
- ②利用する者の範囲： 主催者である深谷市より任命された本プロジェクト審査員
- ③共同利用の目的： 本プロジェクトの審査を公正・公平に行うため。

なお、上記管理責任者は主催者である深谷市とします。

■ 個人情報の第三者への開示

個人情報について、本項に定めている場合を除き第三者に開示することは、原則いたしません。提供先・提供情報内容を特定したうえで、ご本人の同意を得た場合に限り開示します。

ただし関係法令に反しない範囲で、応募者の同意なく応募者の個人情報を開示することがあります。

■ 第三者の範囲

以下の場合に個人情報の提供を受ける者は、第三者には該当しないものとします。

- (1) 利用目的の達成に必要な範囲内において、深谷市が個人情報の取り扱いの全部または一部を委託する場合。
- (2) 予め明示した条件に基づき共同利用を行う場合。

■ 個人情報ご提供の任意性について

本プロジェクトにおける個人情報の提供は任意ですが、情報を提供いただけない応募者については、利用目的に挙げた業務のうちご案内、選考、アンケートの配信、ご意見・お問い合わせへの回答ができない場合があります。

■ 個人情報の開示及びお問い合わせについて

本件でご提供いただいた個人情報の開示に関する事項や修正、お問い合わせ等につきましては下記へご連絡ください。

【お問合せ先】

DEEP VALLEY Agritech Award 運営事務局

(運営:株式会社ユニークピース、株式会社 SHAPE)

E-MAIL: agritechaward@deep-valley.jp

4. 提出書類について

- ① 提出書類は日本語で記入してください。
- ② 締切日時を経過しての応募申請は、如何なる理由でも受け付けできません。
- ③ 応募書類に空欄などの不備がある場合は、審査の対象となりません。
- ④ 本応募要項に示された様式以外での応募は、認められません。
- ⑤ 締切日時経過後の書類等の変更・差し替えは原則として認められません。
- ⑥ 最終審査は収録撮影を行い、後日配信公開を予定しています。お申込み内容などについて、**ノウハウや営業上の秘密事項、特許事項などについては、法的保護を行うなど申込み者の責任で対応することとし、主催者側での法的保護は行いません。公表しても差し支えない範囲で応募してください。**
- ⑦ ご提出いただいた応募提案書等は返却しません。
- ⑧ なお、応募提案の内容が、第三者の著作権その他知的財産権の対象となっているものが含まれている場合、当該権利を使用した結果として生じる責任は、応募者が負うこととします。応募提案の内容が第三者の知的財産権を侵害することにより主催者が損害を被った場合には、応募者はこれを補償することとし、第三者からの損害賠償その他の請求について、応募者は自己の責任と費用において対応し、主催者を防御するものとします。
- ⑨ 1 応募者につき、1 提案のみ受け付けいたします。

7.2. 提案に関する権利関係

1. 応募された提案に関する知的財産権

- ① 応募された提案に関する著作権その他の知的財産権は応募者に帰属します。応募者は、主催者にこれらの権利を非独占的かつ無償で許諾し、主催者が本プロジェクトの遂行のために事業提案書を利用することに同意するものとします。
- ② 応募者は、自身が行う提案が、第三者の著作権その他知的財産権を侵害していないことを保証します。万一、応募提案が第三者の権利を侵害している場合又は侵害するおそれがあると主催者が判断した場合（応募後に侵害となった場合を含みます）、受賞発表後でも受賞を取り消すことがあります。
- ③ なお、応募提案の内容が、第三者の著作権その他知的財産権の対象となっているものが含まれている場合、当該権利を使用した結果として生じる責任は、応募者が負うこととします。応募提案の内容が第三者の知的財産権を侵害することにより主催者が損害を被った場合には、応募者はこれを補償することとし、第三者からの損害賠償その他の請求について、応募者は自己の責任と費用において対応し、主催者を防御するものとします。

2. 受賞後の経過報告

- ① 受賞者には、受賞後の経過について深谷市産業振興／農業関連イベント等にて報告していただくことで、継続して取組を周知できる機会を提供いたします。また、受賞後の活動実績についても報告を求めることがあります。
- ② 受賞企業には本アワードを含む「アグリテック集積都市 DEEP VALLEY」事業のPR 施策（インタビューや動画制作等）にご協力いただく場合がございます。

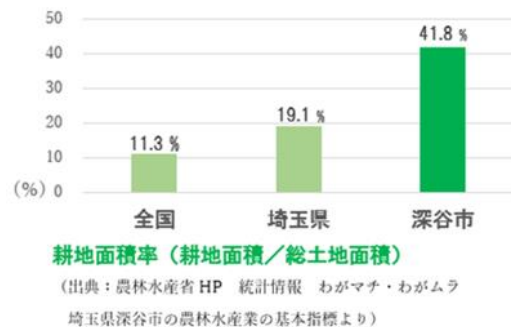
8. 参考資料

8.1. 深谷市の農業に関する現状認識

深谷市の農業に関する現状認識は下記の通りです。

✓ 豊かな農業

- 深谷市は日照時間が長く、関東を代表する利根川と荒川 2 つの河川によって肥沃な大地にも恵まれている
- 深谷市の面積の約半分は田畑であり、全国的にも耕地面積率が高い（深谷市 41.8%、埼玉県 19.1%、全国 11.3%）
- 農作物としては、全国的に知られる深谷ねぎをはじめ、ブロッコリー、キュウリ、スイートコーンなどの多種多様な野菜が生産されている他、ユリやチューリップなどの花き栽培も盛んである



✓ 総農家数・販売農家数は埼玉県内トップクラス

- 深谷市の総農家数は 2,134 戸、販売農家数は 2,122 戸となっている（2020 年農林業センサスより）

✓ 深谷市は関東の台所

- 令和 5 年の深谷市農業産出額は 307.2 億円（推計）であり、そのうち 68.23%を耕種（209.6 億円）が占めている。耕種の内訳では野菜が最も多い（58.30%）
- 首都圏にあるという立地特性を活かし、多種多様な農産物を首都圏に供給し、関東でも有数の農業地域としての地位を確立している。農業産出額は、野菜で見ると全国の市町村で 8 位である。

✓ 農家の高齢化の進行に伴う、遊休農地・耕作放棄地の増加

- 市内工業団地の立地や農業以外の環境整備が進み、社会情勢の変化もあり農業の兼業化が進行し、土地利用型農業を中心として農業の担い手不足が深刻化
- 兼業農業者自身の高齢化が進み、機械更新時や世代交代等を機に農地の貸出希望が増加している一方、農地を引き受ける担い手が不足していることや、新規就農者への貸出に対する心理的抵抗感が壁となっている
- 農業就業人口の高齢化や減少に伴い、農業後継者に継承されない農地や、担い手に集積されない農地において一部遊休化した農地が近年増加傾向にある
- 遊休農地を放置すれば、利用が遅れるばかりでなく、周辺農地の耕作にも大きな支障を及ぼすおそれがある

✓ 後継者不足となる背景に関する原因仮説

- 子が後を継がない原因・背景として、「農業はきつい」「農業は稼げない」「休みがない」というイ

メージが抱かれている

- 親が継がせない理由として「自然相手なので収入の不安定さ」がある
- 新規就農が難しい理由として、「初期投資」「技術やノウハウの伝承」「地域社会からの信頼」の壁がある

8.2. 深谷市の農業基本データ

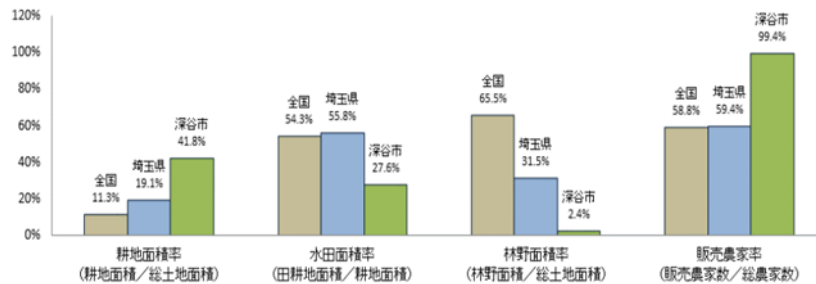
出典：農林水産省 HP「わがマチ・わがムラ」

<https://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/11/218/index.html>

農林水産業の基本指標

■ 面積		■ 世帯等		■ 地域	
総土地面積	13,837 ha (36%)	総世帯数	55,854 世帯 (1.8%)	農業集落数	190 集落(4.8%)
耕地面積	5,790 ha (8.0%)	農業経営体数	2,194 経営体 (7.7%)	農産物直売所数	11 施設(1.7%)
田耕地面積	1,600 ha (3.9%)	総農家数	2,134 戸 (4.6%)	漁港数	-
畑耕地面積	4,190 ha(13.1%)	自給的農家数	12 戸 (0.1%)	漁船隻数	...
林野面積	327 ha (0.3%)	販売農家数	2,122 戸 (7.7%)		
■ 人口		主業経営体数	738 経営体(16.0%)		
総人口	141,268 人 (1.9%)	準主業経営体数	142 経営体 (3.2%)		
農業に60日以上 従事した世帯 員・役員・構成 員(経営主を含む) 数	4,182 人 (9.4%)	副業的経営体数	1,243 経営体 (6.6%)		
漁業就業者数	...	林業経営体数	-		
		漁業経営体数	...		

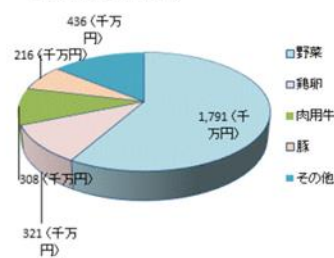
注1:耕地面積は令和6年面積調査、漁港数は水産庁資料「漁港一覧」(令和7年4月1日現在)、漁業就業者数、漁業経営体数、漁船隻数については2023年漁業センサス、総世帯数は令和2年国勢調査、農産物直売所数は2010年世界農林業センサス、前記以外は2020年農林業センサス。
注2:()内は都道府県内でのシェア。



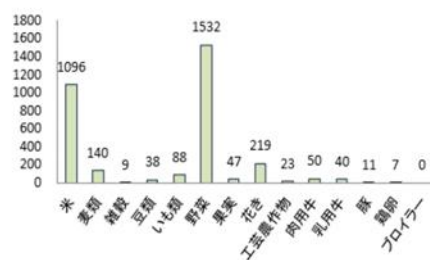
農業部門別の産出額・農業経営体数

■ 農業産出額(推計)		■ 農業経営体数	
合計	3,072 千万円	2,194 経営体	
耕種計	2,096 千万円		
米	80 千万円	1,096 経営体	
麦類	12 千万円	140 経営体	
雑穀	1 千万円	9 経営体	
豆類	1 千万円	38 経営体	
いも類	10 千万円	88 経営体	
野菜	1,791 千万円	1,532 経営体	
果実	5 千万円	47 経営体	
花き	174 千万円	219 経営体	
工業農作物	1 千万円	23 経営体	
種苗・苗木類・その他	22 千万円		
畜産計	976 千万円		
肉用牛	308 千万円	50 経営体	
乳用牛	128 千万円	40 経営体	
うち生乳	120 千万円		
豚	216 千万円	11 経営体	
鶏	321 千万円		
うち鶏卵	321 千万円	7 経営体	
うちブロイラー	-	X	
その他畜産物	3 千万円		
加工農産物	-		

農業産出額の内訳



農業経営体数



注1: 農業産出額(推計)については令和5年市町村別農業産出額(推計)、農業経営体数については2020年農林業センサス。
注2: 農業経営体数の合計は実経営体数のため内訳と一致しない。

販売を目的とした農畜産物の作付・飼養状況

■ 稲、麦、雑穀、いも類、豆類、工業農作物		
	農業経営体数	作付面積
水稲	1,093 経営体	751 ha
陸稲	9 経営体	5 ha
麦類		
小麦	137 経営体	549 ha
大麦	8 経営体	30 ha
裸麦	1 経営体	X
そば	3 経営体	10 ha
その他雑穀	6 経営体	2 ha
いも類		
ばれいしょ	78 経営体	5 ha
かんしょ	26 経営体	X
豆類		
大豆	13 経営体	11 ha
小豆	6 経営体	0 ha
その他の豆類	22 経営体	2 ha
工業農作物		
さとうきび	X	X
なたね	1 経営体	X
茶	-	-
てんさい	X	X
こんにゃくいも	-	-
その他工業農作物	22 経営体	53 ha

■ 果樹		
	農業経営体数	栽培面積
温州みかん	3 経営体	0 ha
その他のかんきつ	3 経営体	0 ha
りんご	-	-
ぶどう	5 経営体	X
日本なし	2 経営体	X
西洋なし	-	-
もも	4 経営体	1 ha
ずもも	2 経営体	X
おうとう	-	-
うめ	5 経営体	0 ha
びわ	X	X
かき	9 経営体	1 ha
くり	14 経営体	5 ha
キウイフルーツ	1 経営体	X
パインアップル	X	X
その他の果樹	17 経営体	3 ha

■ 花き		
	農業経営体数	栽培面積
花き類	168 経営体	140 ha
花木	57 経営体	150 ha

■ その他の作物		
	農業経営体数	栽培面積
その他の作物(飼料用を除く)	43 経営体	15 ha

■ 野菜		
	農業経営体数	作付面積
だいこん	154 経営体	38 ha
にんじん	79 経営体	X
さといも	123 経営体	13 ha
やまのいも	43 経営体	90 ha
はくさい	148 経営体	X
キャベツ	279 経営体	93 ha
ほうれんそう	341 経営体	60 ha
レタス	77 経営体	18 ha
ねぎ	1,021 経営体	454 ha
たまねぎ	92 経営体	X
ブロッコリー	678 経営体	615 ha
きゅうり	400 経営体	84 ha
なす	150 経営体	15 ha
トマト	135 経営体	19 ha
ピーマン	33 経営体	1 ha
いちご	12 経営体	X
メロン	4 経営体	X
すいか	23 経営体	2 ha
その他の野菜	404 経営体	356 ha

■ 畜産		
	農業経営体数	飼養頭(羽)数
乳用牛	40 経営体	1,567 頭
肉用牛	50 経営体	7,961 頭
豚	11 経営体	33,221 頭
採卵鶏	7 経営体	22,120 百羽
ブロイラー	X	X

注1: 2020年農林業センサスによる令和2年2月1日前1年間値。
注2: 作付(栽培)面積については、販売を目的として作付け(栽培)された面積。
注3: 農家の自己申告による。

農産物の生産

■ 普通作物・工芸農作物

	作付面積	収穫量
水稻	796 ha (2.7%)	3,650 t (2.6%)
麦類		
小麦	493 ha (8.9%)	2,010 t (9.2%)
二条大麦	-	-
六条大麦	33 ha(21.2%)	95 t(20.4%)
(はだか)麦	-	-
大豆	11 ha (1.6%)	13 t (2.4%)
そば	15 ha (5.0%)	7 t (3.6%)
なたね	-	-

注1: 作況調査による令和6年値。

注2: 作付面積は、1品種又は植え付けしてからおおむね1年以内に収穫された面積。

注3: ()内は都道府県内でのシェア。

8.3. 深谷市における農業課題（例）

深谷市の農家からヒアリングした農業課題例や、農と食にまつわる社会的な課題を下記に紹介します。募集提案については各応募者において課題を自由に設定して下さい。

【栽培環境】

- 圃場に生えてくる除草作業だけで、手間と時間と労力がかかる。
- 圃場での直線引き作業が、単純作業だけだとすごく手間がかかる。
- 農薬の適切な使用方法などが体系化されたアプリが欲しい。
- 日照量など、ここ数十年の天候データ（日差し、気温等）が日単位でどう変化しているかというデータがあるとよい。
- 気候変動に対応し、薬剤や追肥を的確なタイミングで散布したい。
- 暑さで農作物がダメになってしまう。
- 大雨で圃場の水がなかなか引かず、作物が窒息するなどの被害が出てしまう。
- 黒腐菌などの土壌の病気を抑える、あるいは出てしまった圃場の早期回復ができないか。
- ここ最近では特に気象が定まらず、雨が全く降らない日が続いたと思ったらゲリラ豪雨がやってくるなど、異常気象が続いている。こうした天候環境に対応する術はないか。
- 肥料等生産資材の海外依存を改善できないか
- 安定的な食糧の生産・供給につながる環境整備を実現したい
- 鶏舎、豚舎、牛舎などの環境改善をし、家畜の健康を守りたい。
- 生産物（野菜）とそれ以外の植物（雑草）を区別して収穫や除草、施肥、農薬散布を行うことができればありがたい。
- 鳥との共存も図りながら、防鳥対策を施したい。

【収穫】

- ねぎの調製作業の時間短縮や省力化をしたい。
- 収穫作業に人手がとられてしまい、梱包などの他の作業に割く時間が少なくなってしまう。
- 夜明け前から始まるトウモロコシ収穫が楽にならないか。
- 圃場で収穫物を入れる箱が、自動で運搬してくれたら手間が減らせる。

-
- いちごの収穫タイミングを簡単に判断できる機械が欲しい。
 - いちごの収穫時期に現れる野ネズミへの対策方法がないか。

【経営】

- 必要な時に手軽に人手を確保できないか。
(天候や作物の成長具合で急に人材が必要になる場合がある)
- 圃場が点在していて管理が大変なので、簡易的なもので構わないのでカメラを設置することで、行かなくても状況がすぐわかるようにすることはできないか。
- 機械の購入費や燃料代を抑えたい。
- 機械が老朽化しているが、機械の金額が高くて新規投資ができない。
- 梱包などの出荷作業を短縮できないか。
- 機械は欲しいが、年間で使う時間が限られているものは購入をためらう。
- 生産物や時期によって作業のムラがあり、人を雇ってもうまく使えない。
- 農家の経験を生かし農家同士の連携を図って、農業ヘルパーのような仕組みがあるとよい。
- 野鳥を鶏舎に寄せ付けないための技術や機械がほしい。
- 余剰野菜、廃棄物(例：ねぎの残渣等)を加工、資源化し、販売することはできないか。
- 販路を拡大したいが価格交渉がしにくい。

【その他】

- 定植から収穫まで時間がかかるため、作物・品種ごとの成長速度にもよるが数カ月先の市場・顧客の予測が難しいので、「逆算」での計画が立てにくい。
- ベテラン農家の持っている栽培技術を継承し、地域の農業を守りたい。
- 農家が培った「勘」を体系化できれば、それを若い世代に伝えることができるのではないか。
- 農業は引退したいが、施設や農地は残るわけでどうしたらいいか迷っている。
- 耕作地を集積化(近くにまとめる)し移動の時間と危険性をなくし、能率をあげたい。
- 特に冬の砂ぼこりがすごくて、外での作業が大変
- 体がうまく動かせない部分があるので、それをサポートしてくれる機械はないか。
- 真夏の炎天下での作業に役立つ服や帽子があったらいい。
- 施設栽培でロボット化をしたいが、既存のハウスをそのまま利用できるものでないと使いづらい。
- 作物自体を病気に対して強くできないか。
- 「規格外」の野菜を有効活用できないか。
- 農業のバリューチェーン(生産→市場→小売→消費者)において農家で値決めができない。
- 規模の拡大(面積、収量等)と、コストを鑑みた利益のバランスのとり方がわからない。
- 生産した農産物に付加価値をつけたい。

-
- 野菜や卵などの新鮮さを保つ、新しい技術が欲しい。
 - 野菜の栄養価が下がっているので、土壌改良により栄養価を上げて他の地域と差別化／ブランド化したい。
 - 深谷ねぎ以外の野菜もブランド化したい。
 - 「食」に着目した知的財産権の活用はできないか。
 - 地域の活性化につながる商品やサービスの開発。
 - 食料品店などへアクセスが難しい人への、食料品提供機会の確保ができないか。
 - 生産者と流通業者が共同する等の新しい仕組みで、流通過程でのコスト削減を狙えないか。
 - 「食育」だけでなく、「農育」としての取組のきっかけはないか。
 - 流通等での電話や FAX、紙をベースにしたアナログ取引の仕組みを改革することはできないか。
 - 新しいマーケットの創造をするきっかけの発掘。
 - 畜産業として排泄物の堆肥化をしているが、その他の活用方法はないか。
 - 規格外野菜のニーズの発掘、販売できる仕組み
 - 外国人技能実習生や技能実習生が作る青果物の信頼獲得をしたい。

※上記の農業課題は、深谷市の生産者の声などを一部抜粋したものを含みます。
併せて、以下の農業課題一覧もご参考ください。

【参考】DEEP VALLEY ホームページ 農業課題一覧

<https://deep-valley.jp/agritask/>

